

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成27年12月 1日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 霊長類研究所

職 名・学 年 准 教 授

氏 名 後 藤 幸 織

助 成 の 種 類	平成27年度・若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成・若手		
研 究 集 会 名	世界精神医学会国際会議2015ならびに第4回アジア統合失調症研究会議・第4回アジア精神神経薬理学会議 World Psychiatry Association Internatioal Congress 2015/4th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology		
発 表 題 目	Dopamine D1 Signaling in Social Function of Non-Human Primates		
開 催 場 所	Taipei International Convention Center, Taipei, Taiwan		
渡 航 期 間	平成27年11月18日 ～ 平成27年11月23日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	100,000円	
	使用した助成金額	100,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	往復航空券 36,780円	
		宿泊費①(11月18-21日) Golden China Hotel 39,582円	
宿泊費②(11月21-23日) T.O. Hotel 10,740円			
学会参加登録費 9000 NTD (35,906円) (合計 123,008円のうちに助成金を充当)			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)		

成果の概要／後藤 幸織

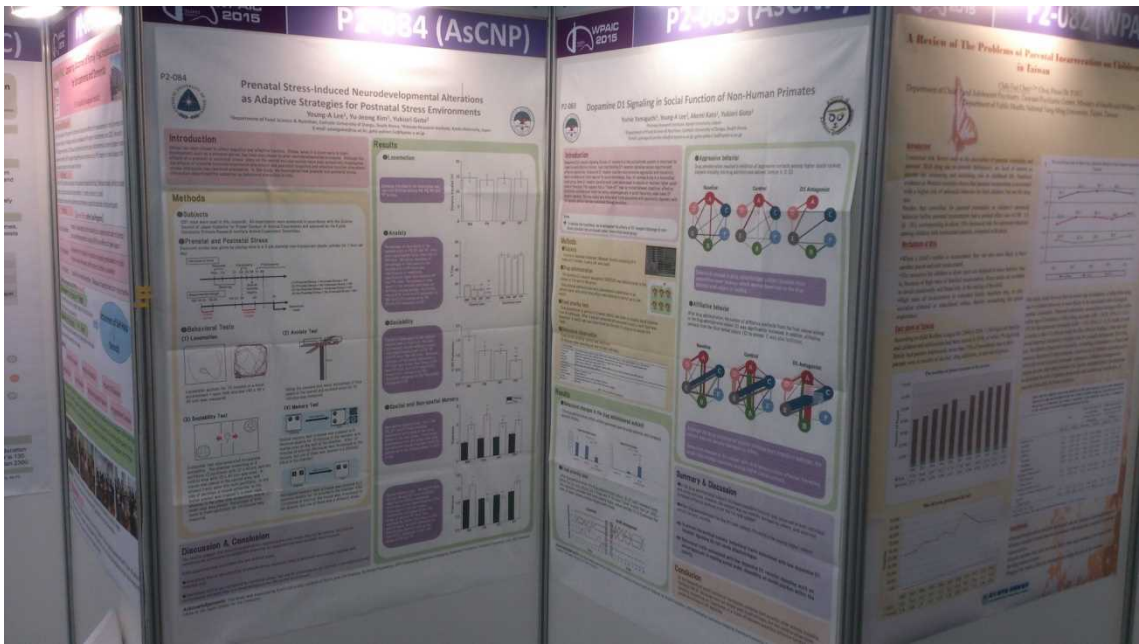
この度、京都大学教育研究振興財団より国際研究発表助成を受け、台湾・台北市の Taipei International Convention Center で 11 月 18 日から 22 日まで開催されました、World Psychiatric Association International Congress /4th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology に参加してきましたので報告いたします。

主な成果としては以下の 3 点となります。

(1) まず、ポスター発表による研究成果の発表、参加者との意見交換をしまりました。私に関連したポスター発表は、今回、2 つありました。ともに、11 月 20 日 8:30-17:30 の間の発表となりました。1 つは、2P-083 「Dopamine D1 signaling in social function of non-human primates」を、私自身が筆頭著者として研究成果の説明と討論をおこないました。もう 1 つは、2P-084 「Prenatal stress-induced neurodevelopmental alterations as adaptive strategies for postnatal stress environments」で、韓国の共同研究者である大邱カトリック大学の Young-A Lee 博士と推進している共同研究の研究成果に関してでした。こちらは Lee 博士が筆頭著者として発表、討論を行いました。途中、私も意見交換に参加をしました。これらのポスター発表には、台湾、中国、韓国、インドなどのアジア圏の研究者ならびにイギリス、フランスなどのヨーロッパならびに北米の研究者など世界各国からの参加者が、総勢で 20 名以上が来てくださり、研究結果の意見交換を行えました。このような討論を通じ、今後、研究をどのように発展させていくべきか、等の検討をする上で非常に役立つであろう貴重な意見を多くいただくことが出来た、最も重要な成果であったといえます。

(2) 今回参加しました学会では、著名な研究者による招待講演やシンポジウムが多く企画されており、それらに参加することにより、多くの情報収集をすることが出来ました。このような講演やシンポジウムを通じて、精神医学・精神神経薬理学分野における最新の臨床研究ならびに基礎研究の動向や成果を学ぶことができました。このような情報には、例えば、精神障害の生物学的な診断を可能とするバイオマーカーに関する研究やその成果、統合失調症の発症メカニズムとして、現在とても注目をされている免疫炎症が関わっている可能性を示唆する最新の研究結果、さらには、アジア圏で行った精神障害のゲノムワイド関連解析研究によってあきらかになりつつある、西洋人での精神障害との関連遺伝子の差異についてなど、を含みます。このような情報は、今後、自分自身の研究に取り入れて展開する上で重要な役割を果たすことは間違いなく、重要な成果であったといえます。

(3) また、今回参加しました学会は、参加者の多くが臨床研究や基礎研究でも精神障害などの脳機能障害のメカニズム解明に向けた研究を行っていることから、Exhibition に、多数の製薬企業が出展しておりました。このような製薬企業のブースに立ち寄り、参加している研究員と話をする機会を得て、精神障害に関連する薬品開発に関する最新の情報を得ることが出来ました。このような情報が得られたことによって、今後、研究を産学連携事業として発展させていく可能性を見出すことができた、重要な成果であったといえます。



ポスター会場にて。